



発行所
〒371-0026
前橋市大手町2-14-6
Tel.027-221-2746
E-mail
mae-cato@pop17.odn.ne.jp
Web
<http://www.maecato.org>

絶望したら、祈りなさい!

御前ザビエル神父

この間、9月28日にインドネシア・スラウェシ島パルで起きたマグニチュード(M)7.5の地震と津波による2000人以上の犠牲者のために祈りながら、あの国の勇気ある18歳の青年の奇跡的な救済を思い出しました。

名前は、アルディ・ノヴェル・アディラングです。スラウェシ島で伝統の釣りの仕事していました。屋根が付いて、マナド湾の沖に係留された筏いかだに何日も乗って、電灯の光に引き寄せられた魚を釣る仕事です。彼は16歳からこの仕事をしています。毎週雇人が、アルディが釣った魚を取りに来ます。その時、1週間分の食料と水、また料理用のコンロの灯油と電灯の燃料を持ってきてくれます。

7月中旬に、荒れ狂う嵐が筏のロープを断ち切ってしまいました。オールとエンジンがついていないので、海辺に戻れません。持っている物はわずかです。着替えの服、お母さんがくださった聖書、そして、万一の場合、困った時に助けを求めるために友人がくれた無線のラジオだけです。どんどん太平洋の沖に流されていくアルディは、何もすることができません。みずぼらしい小舟にすがりつく彼は、毎日少なくなる食料が無くなったときにどうしようと悩み始めます。最初から、なるべく少量でお腹をこまかしました。10日間経ったとき、もう食べ物が無くなりました。飢え死にせず、生き延びるために色々と工夫します。嵐の中、釣り道具を全部失ってしまったので、筏に近寄ってくる魚を手で上手に捕まえることができるまで数日かかりました。捕った魚を焼くために、筏の縁の木、その後、屋根の板を燃やすしかありませんでした。服を使って、海水をこし取って、少しずつ飲料を作ります。

流されて最初の日から陸が見え無くなりました。遠くに航行するタンカーや貨物船が10隻ぐらい見えました。救助を求めるため、服を振っても去って行きました。アルディは、涙をこらえきれず、絶望の淵に落ちそうになりました。彼は、もう死ぬのなら、海に飛び込んで、早く死んだ方がましだと何回も思いました。その時、両親の言葉を思い出していました。「絶望したら、祈りなさい!」と。新たな希望をいただいて、友だちがくれたラジオを使うことにしてみました。奇跡的に、アルペッジョという船に彼のメッセージが届きました。喜びの涙を流しながら、自分の方に船が近づいてくるのを見ていました。海が荒れているので、救済は難しかったのです。何回もやってみても、タンカーに横付けることができませんでした。やむを得なく、海に飛び込んで、船から降ろされたロープを、体がとても弱くなっているにも関わらず、一死の覚悟で捕まえて、体に巻いて、引き上げられて助かりました。

49日間、必死の2500キロ以上、波間に漂って助かったアルディは、両親の言葉によって救われたと証しました。もうだめだと思ったとき、必ず「絶望したら、祈りなさい!」という言葉を出して、祈っていました。

カトリックの熱心な家族で育てられたこの青年は、祈りを大切にしていました。筏にいつも聖書を持っていて、必ず読んで祈っていました。きっと、詩編46のことばを読んで励まされたことでしょう。「わたしたちは決して恐れない。地が姿を変え、山々が揺らいで海の中に移るとも。」彼にとって、聖書と祈りは、一番大きな助けとなって、計り知れない試練を乗り越えることができたと言いました。助けてくれた船の目的地は日本でしたが、9月の初めに、家族の元に戻ったアルディは、すっかり元気になられて、一生忘れられない19歳の誕生日を祝ってもらいました。わたしたちも、どんなことがあろうとも、



いつもみことばと祈りに支えられて生きることができますように。

【青年が乗っていた筏「ロンボ」】(cnn.co.jpより <https://www.cnn.co.jp/>)

敬老の祝福と祝賀会

9月16日（日）敬老の日を前に、主日ミサのなかで敬老の祝福が行われました。ミサの後に、アレルヤ館で祝賀会が催され、敬老の日をお祝いしました。また、この日は、日本の文化に触れるために来日されている、御前ザビエル神父様の又甥にあたるマティアスさんも出席されました。神父様の尺八の演奏や、歌の披露などがあり、和気あいあいとした会となりました。



【↑敬老の祝福】



【↑神父様による尺八演奏】



【↑聖歌隊メンバーによる歌の披露】



【↑神父様の向かって右隣りがマティアスさん】

さいたま教区 マリオ山野内倫昭 司教叙階式に参列して

岩崎 清隆

9月24日、群馬中央北の教会の信者40名とともに、さいたま教区新司教叙階式に参列させていただきました。式はさいたま市明の星中・高校の大きなホールで行われましたが、それでも1000人以上の参列者は収容しきれず、別棟の体育館も使われました。私もこの別棟でビデオ中継を介して式に参列でした。中継映像なので臨場感には欠けましたが、それでも式の荘厳さはそれなりに伝わりました。

叙階式の中で、ふたつのことが私の印象に残りました。そのひとつは司教誕生の形式に関するものです。式の始めの部分で、祭壇上で教区の聖職者、信者の代表がまず「山野内師を私達の司教として下さい」という希望が表明され、司式司教はそれに対して「教皇の任命書がありますか、あったら一堂の前で読み上げて下さい」と答えます。それに応えて駐日教皇庁大使がパパ様の司教任命書をラテン語で読み上げました。この形式の中に、教会の普遍性や、史的連続性とい



【駐日教皇庁大使による任命書の朗読】

うようなものが感じられ嬉しく思いました。教区の長たる者の選出です。信仰、人徳はもちろんのこと、管理運営的な能力も求められるのでしょうか。そういう方の選出であるからこそ、新司教誕生までに5年かかったのでしょうか。しかしそういう経緯も最終的にはパパ様の任命という形をとっています。

パパ様は任命書の中で、新司教に対して「愛する子よ、あなたに委ねられた信徒の信仰、希望、愛徳が増していくように努めなさい」との励ましがありました。こういう任命の形式によって、世界中の力





【岡田武夫大司教様による接手の場面】

トリック教会がひとつになり、また時代を超えて連続性を保持できるのかも知れません。

もうひとつの印象深かったことは、最後の謝辞の部分で、山野内新司教自身が日本の司教ひとりひとりを参列

者に紹介して下さったことです。日本の今の司教団



は、教会内部のことだけではなく、教会としてこの国のゆくすえに関しても一歩踏み込んだ発言をしています。司教様のひとりひとりの名前と顔が一致したことは嬉しい事でした。



「Unum corpus in Christo キリストにおいてひとつの身体」が、山野内新司教の牧者としての豊富とのことです。小教区内での融和、教区内、日本の中での融和、世界の中での融和、こういう融和こそが初代教会からの教会の歴史に連なるものかと、この言葉を受けとめました。



【着座される山野内司教様】

前橋教会バザー

10月21日（日）前橋教会恒例のバザーが好天に恵まれたなか、開催されました。



ミサが終わると、まず藤岡ダルクの皆さんによる琉球太鼓の演舞がありました。力強い太鼓の響きと踊りにみな心躍らせました。シーサーも登場し、獅



子舞と同様な踊りをしながら会衆の頭をひと噛みしてまわりました。最後の曲では会衆も一緒に踊り、盛り上がりました。



琉球太鼓の演舞の後は、聖歌隊による合唱、フィリピン・グループと飛び入り参加でのダンス、沼田教会信徒によるダンスと続き盛り上がりました。

また、教会の活動グループごとに多くの出店がありました。マリア会はお惣菜やカレー、青年会の焼きそば、教会学校の手作りスイーツ、フィリピン・グループの春雨料理やおかゆなど、またコーヒーや

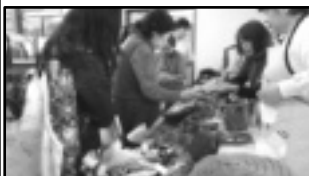


ジュース、ヨセフ会のゲームコーナーなどがありました。アレルヤ館では手芸品をはじめ、品揃え豊かにバザー品が並べられ、大賑わいでした。

最後は、お楽しみ抽選会、ザビエル神父様が抽選券を引き、名前が読み上げられるたびに大歓声が起こりました。喜びのうちにバザーを終えることができました。神に感謝。(編集部)



【↑ 沼田教会の皆さんのダンス】



【↑手芸品コーナー】 【青年会ではインドネシア震災の募金を募りました。↑】



【お楽しみ抽選会↑】

ご冥福をお祈りいたします

ペトロ 橋本 稔 さんが、10月12日(金) 帰天されました。享年81歳。

10月15日(月) 前橋教会において葬儀ミサが執り行われました。

その他の行事と お知らせ

☆9/9(日) 初聖体準備勉強会が始まります。ミサのなかで皆さんにご挨拶。→



☆旧倉庫跡が整備され、駐車場が広くなりました。排水溝も整備されました。



※11/4(日) ミサ後、侍者について学ぶ集いが行われます。対象は初聖体を受けた子ども達です。

※11/11(日) ミサの中で七五三の祝福が行われます。

※11/17(土) 13:00~17:00 前橋教会において『さいたま教区宣教・福音化年第2部』の行事が行われます。

※11/25(日) ミサ後に地震と火災に備えた避難訓練が行われます。ご協力をお願い致します。

12月16日(日)

待降節黙想会

指導 長崎 壮神父(クラレチアン宣教会)

会場 聖堂とアレルヤ館

同日

教会学校 子どもクリスマス

会場 信徒会館2階